

【学位論文要旨】

題目：于右任「標準草書」研究

張月

本論文は、于右任から創始、提唱された「標準草書」を取り上げ、その背景、経過、内容、于右任没後の継承及び日本への影響について様々に考察し論ずるものである。従来、「標準草書」について主にその書法の視点から見た特徴や位置づけに重点が置かれてきたが、本論文では、「標準草書」と中国における文字改革との関係を中心にしながら、その文字改革の視点から見た特徴や位置づけに注目している。

本論文は七章からなり、その概要は以下の通りである。

序章では、本論文の問題意識や研究の目的、方法などを既存の研究成果を踏まえながら明らかにし、全体の構成と各章の概要を示している。

第一章「標準草書」の創始では、于右任の楷書、魏碑から草書への転向を時系列的に概観し、これまで概要的にしか言及されてこなかったその「標準草書」創始の経緯を史料に基づいて考察し、明確にしている。于右任は中国同盟会以来の革命派と政治家で中国国民政府の監察院院長として知られる一方、中華民国時代を代表する書家でもある。彼は楷書と魏碑に精通し、碑から帖に入り、清末以降の碑帖結合の代表的な人物である。後に草書に転向し、独特の風格を持つ「于体草書」を形成し、その後、草書の普及を促進するために「標準草書」を創始した。本章は、書家としての于右任の人物像に焦点を当てて、その草書への転向及び「標準草書」事業を起こした過程を考察し解明している。

第二章文字改革運動の興起と「標準草書」では、これまで注目されてこなかった「標準草書」と中国における文字改革の関係について考察し、「標準草書」は近代中国における文字改革の一方案として打出されたものであると指摘する。1920年代から1930年代にかけて、文字改革をめぐる論争が激しくなり、漢字を廃除し、音標文字を導入する漢字廃除案と漢字を改良し維持していく漢字簡略化案が対立し、それに対する関心が高まっている。「標準草書」は漢字簡略化案の一つとして提唱され、「標準草書」を用いての文字改革、ローマ字導入の反対を主張した。ほかにも錢玄同や卓君庸など漢字簡略化についての主張が多数あったものの、于右任は「標準草書」というものを自ら創始し、漢字簡略化の応用字体としてその普及に向けて実践活動を行っている点などで彼らと一線を画すと指摘している。

続いて「標準草書」の内容と特徴について、書写文字としての草書の提唱、字数の制限、

偏旁部首の符号化と共通化とそれぞれ考察し、「標準草書」の中核的な部分である偏旁部首の符号化の仕組みについて原典を使いながら明らかにしている。文字改革の具体的な方法として、「標準草書」は「印刷用楷、書写用草」、「字数の制限」、「偏旁部首の符号化、共通化」などが考案、実施され、とりわけ74の代表符号の創立によって、従来異なった部首の書き方が一つの書き方に統一され、これによって草書でも「易識」「易写」が可能になると期待されたと論ずる。

第三章「標準草書」を唱える専門誌『草書月刊』では、于右任が草書の研究と普及のために創刊した専門誌『草書月刊』について、その創刊の背景と経緯、各号の内容から考察分析を行っている。これまでほとんど明らかにされてこなかった『草書月刊』の内容の考察を通じて、それは「標準草書」を宣伝し、草書に関する研究成果を発表するために創立した中国最初の草書専門刊行物として、その前に設立された「標準草書社」と一緒に、「書法創作、書法理論、書法組織、書法専門刊行物」といった四位一体の書法研究と伝播方式を切り開いたと指摘する。

第四章于右任没後弟子による「標準草書」の継承発展では、于右任四弟子（劉延濤、胡公石、李普同、金澤子卿）による「標準草書」の継承について、「標準草書」の理論の発展、関係団体の創立、交流活動の実施などに分けながら検証している。数多く存在していた書法による漢字簡略化案と中華民国期の書法家の中、「標準草書」と于右任はその後比較的大きな影響を持ち続けているが、その原因として、于右任四弟子による「標準草書」事業の継承と発展を挙げることができると論ずる。

第五章日本書道における「標準草書」では、これまであまり着眼されてこなかった于右任と「標準草書」の日本への影響について、日本における于右任書の収蔵と書展、『于右任草書千字文』、『于右任字典』をはじめとする関連書籍の刊行を通して考察を行い、その一断面を明らかにしている。とりわけ、瀧澤虚往による「新調和体」を事例に、「標準草書」を日本の「調和体」書道に採り入れ、それによって新しい書芸術の創出を試みる動きが見られることが明らかにすることができたと考える。

終章では、第一章から第五章の内容を総括し、本論文の結論をまとめながら、従来の研究と比較した到達点、新しく得られた知見、今後の課題と展望を述べる。

(以上 1999 字)